

ベストクラス選定理由書

作成者：西田有吾、渡邊香子、小林美紅、岡坂憲一、庭瀬敬右、谷林径明

科目名称 : 包括的児童生徒支援に関する事例研究 (夜間クラス) (担当教員名 : 松本 剛、隅元 みちる、森本 哲介、山本 真也)	
課程 : 大学院 (専門職)	開講時期 : 前期
授業形態 : 講義・演習	授業規模 : 30人以下
インタビュー対象教員名 : 松本 剛、森本 哲介 (実施日時 : 令和4年7月26日(火) 13:10~13:40 ; 実施場所 : 図書館会議室)	
インタビュー対象受講者名 : 上田 沙智、尾前 賢哉 (実施日時 : 令和4年7月26日(火) 13:40~14:10 ; 実施場所 : 図書室会議室)	
【選定理由】 授業評価アンケートの評価値が高く、受講生のコメントで「受講者も授業に参加することで授業がよりよいものになった」と評価されていたことから、本科目をベストクラスとして挙げた。 【担当教員に対するインタビューより】 <ul style="list-style-type: none">・毎回の授業で、受講生同士が話し合う場を必ず設けられていた。現職教員とストレートの学生が交流できるように、Zoom のブレイクアウトルームを作り、年齢や立場の垣根を越えた、学び合いや対話を実現されていた。教員が受講生にフィードバックする時間もあり、本科目では交流を重視していることがうかがえた。・本科目では反転授業を取り入れられていた。事前に講義を動画で配信することで、講義を自由な時間に何度でも視聴できるというように、受講者の理解がより深まるような工夫も見られた。・授業前に、受講生と教員が交流できる時間を設けられていた。受講生は、「教授や現職教員と意見交換ができる有意義な時間を通じて、講義から得られる情報が価値のあるものだった」と語っていた。・講義をしない教員も、受講生からの質問に答えたり、授業をサポートするなど、複数の教員で授業を作り上げ、教員同士の連携が欠かせない授業であることがうかがえた。 【受講生に対するインタビューより】 <ul style="list-style-type: none">・オンライン授業の良さが活かされていた。対面となると座る位置が固定されていくが、オンラインでは毎回ランダムにグループが組まれていくことによって、毎回様々な校種の方から、多種多様な事例を聞くことができた。・現職教員とストレートの学生が交流できる場が設けられていたことで、新たな気づきを得られた。ストレートの学生にとっては、現職教員の方から実際の経験をもとにした話を聞くことができ、現職教員の方にとっては、ストレートの学生の意見によって新たな気づきがあったという様に、互いに学び合うことができ、良い刺激を得られた。・自分の考えだけでなく、前回の授業のフィードバックがあることによって、他の受講者の考え方に触れることができ、より深い学びが得られた。同じ考え方の割合をグラフに示したり、感想に書かれていた言葉を紹介するなど、単調になりがちなフィードバックを工夫されていた。 【まとめ】 以上より、本科目をベストクラスとして推薦する。	